

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）支援事業

平成29年度予算額（案）：2,219百万円
（平成28年度予算額）：2,155百万円
※運営費交付金中の推計額

（資料3）

将来にわたり、日本が科学技術分野で世界を牽引するためには、イノベーションの創出を担う、科学技術関係人材の育成が不可欠。本事業により、先進的な理数教育を実施している高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」に指定し支援。もって、先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的な能力や科学的思考力等を培い、将来の国際的な科学技術関係人材の育成を図る。

「第5期科学技術基本計画」（抄）（平成28年1月22日 閣議決定）

- ・ 国は、学校における「課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の視点からの学習・指導方法の改善を促進するとともに、先進的な理数教育を行う高等学校等を支援する。

「全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ（第9次提言）」（抄）（平成28年5月20日 教育再生実行会議決定）

- ・ 国、地方公共団体、大学、高等学校等は、スーパーサイエンスハイスクール…の取組の成果を検証しつつ、効果の上がっている取組を推進するとともに、優良事例の普及を図る。

SSH校の主な特徴

H29 新規指定校数：70件程度

（※指定期間：5年、支援額：年間9～16百万円、指定校数：200校（H28現在））

- 学習指導要領の枠を超え、**理数を重視した教育課程**を編成
- 主体的・協働的な学び（いわゆる**アクティブ・ラーニング**）を重視
- 研究者の講義、フィールドワーク等による**興味関心の喚起**
- 国際的な活動**（海外生徒との交流、国際学会での発表等）
- 上記取組を**高大連携**や**企業連携**により高度に実施

<重点枠>

H29 新規指定校数：5件程度

（※最長3年、支援額：年間5～13百万円、重点枠数：17校（H28現在））

- SSH指定校の中で、さらに、以下の取組を行う学校を重点枠に指定
- ・ 理数系カリキュラムや指導法、ネットワーク等を他の学校へ普及し、**地域全体の理数系教育の向上**を目指す。
- ・ 海外の先進的な理数系教育を行う学校等との定常的な連携関係を構築し、**国際性の育成**を図る。
- ・ 大学等と連携したアントレプレナー教育や民間企業との共同研究の推進など、**社会課題解決への貢献を意識**した取組を実施。

《SSH校における先進的な取組事例》

高度な課題研究（平成28年度SSH生徒研究発表会表彰テーマ）

文部科学大臣表彰：福岡県立香住丘高等学校

「水平軸回転飛行物体の飛行性能の向上に関する研究-風力発電機への応用を目指して-」
国立研究開発法人科学技術振興機構賞

- ・兵庫県立加古川東高等学校 「小翼を応用した新しい風車のデザイン」
- ・兵庫県立神戸高等学校 「プラナリアの記憶と再生」

⇒ 「課題研究」（科学に関する課題を設定し、観察・実験等を通じた研究）において、大学・企業等の支援を受けながら、**主体的・協働的に学習・研究を実施**

海外連携



（京都府立嵯峨野高校）

- 海外連携の組織的推進
- アジアサイエンスワークショップ in シンガポール／京都
- 「サイエンス英語」における共同実験

⇒ **国際的に活躍**する意欲能力の育成

理数への関心の向上



（千葉県立船橋高校）

- 県内の小中高大が連携
- 全県規模の「千葉サイエンススクールフェスティバル」開催
- 高大連携セミナーの開催

⇒ 児童生徒の**理数への関心の喚起**